

研究成果報告書

(ふりがな) さとう かずのり

氏名 佐藤和紀

現職(所属名、職名等) 東京都北区立豊川小学校 主任教諭

修了又は卒業年月、専攻又は専修コース名

平成18年3月終了、学校教育専攻 学習臨床コース 情報教育分野

研究テーマ 教師の情報教育を支援するためのプリント教材の開発

1. 問題の所在と研究の目的

永野ら(2010)は「どのようなことができるようになるれば、情報活用能力が身についたといえるのかについて教師にイメージできず、結局、情報教育=コンピュータ教育、あるいはコンピュータ操作教育といった誤解を助長することになる」と述べている。このような状況においては教師が情報教育の活動や評価を理解する何らかの教材群が必要である。そこで、筆者は教師が授業内容や評価をイメージしやすいよう、児童向けプリント教材の開発を行った。

例えば、「社会科の授業で『1964年の東京オリンピック』について調べて新聞を作ることになりました。次の情報のうち、情報源として信頼できるメディアの順番を考えて、数字を下の回答欄に答えましょう。」という問題では、示された5つの情報やメディアの信頼性を考え、信頼性の高い順番に並べ、その根拠を考える、という構成である。他にもプリント教材を20枚開発している。

本研究は開発した児童用プリントを教師に使ってもらい、教師の情報教育に対する理解を促進することを目的し、そのためにプリントの信頼性や妥当性を検討し、再構成した。

2. 研究の実際

すでに開発してある20枚のプリント教材を現職の小学校教員5名で内容および信頼性の検討を行った。その結果、20枚に12枚選定した。

そのプリント教材を活用して、A校およびB校の校内研修で教員32名を対象に情報教育の授業づくり研修会を実施した。

その結果、アンケートで「情報教育に対するイメージが変わった」と回答した教員は25名であり、有意に差があった(p<.01)。また、自由記述欄では「情報教育はICTを使わなければいけないという意識があったが、普段から行っていることも情報教育であり、情報活用能力に位置付いていることに気がついた」などの肯定的な意見が多く見られた。

なお、本研究の一部は以下で報告を行った。

佐藤和紀・堀田龍也(2014)「メディア・リテラシー教育の初心者教員による授業設計に関する分析の試み」日本教育工学会第30回大会講演論文集pp91-92,岐阜大学,2014年9月

情報活用プリント

名前 ()

社会の調べ学習で「1964年の東京オリンピック」について調べることになりました。次の情報のうち、信頼できる情報の順番を考えて、数字を下の回答欄に答えましょう。また、その理由も考えて書きましょう。

①「1964年の東京オリンピックを振り返る」という名前のブログ
 ②Wikipediaで東京オリンピックを調べる
 ③日本オリンピック委員会公式サイト「1964年東京オリンピック」ページ
 ④東京オリンピックを足に行ったことのある道彦のおじいちゃん
 ⑤新聞社発行の「1964 Tokyo」という名前の本

(1) 信頼できる情報の順番

1番 ()	→2番 ()	→3番 ()	→
→4番 ()	→5番 ()		

(2) その理由

図1 活用したプリント教材の一部